



# News Letter No. 123

2022.3 発行

 公益財団法人  
岡山工学振興会 編

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1番1号 岡山大学新技術研究センター内

Tel&Fax: 086-255-8311 E-mail: ofst@okayama-u.ac.jp

URL: <http://ofst.or.jp/>

## 第34回（令和4年度）学術研究助成等公募要項

### I. 学術研究の助成

#### 1. 目的

この助成は、大学と産業界の連携を図りつつ、岡山県内における理工学に関する学術ならびに先端技術の向上を目指した研究を助成し、その振興を図ることにより、岡山県における科学技術社会の発展に寄与することを目的としています。

#### 2. 研究助成の対象

理工学分野の基礎及び応用研究であって、研究者が1人で行うもの、又は2人以上の研究者もしくは研究者と企業が同一の研究課題について共同で行うもので、本年度内に一定の成果が期待されるもの。

#### 3. 研究助成種目

研究の目的・性格に応じて、次の研究種目を設けています。

- |            |   |
|------------|---|
| (1) 萌芽研究   | 研究者自身が、将来の中心課題として取り組む、優れた着想と発展性を備えた、学術的あるいは先端技術に関する萌芽的研究  |
| (2) 一般研究   | 特色ある成果を挙げている研究者が、新しい発想によりさらに学会・社会で認知される水準を目指して取り組む、学術的あるいは先端技術に関する研究  |
| (3) 特別研究   | この研究助成は「内山勇三科学技術賞」と称し、平成元年に内山工業株式会社元会長故内山勇三氏の寄附金で設けたもので、特色ある先導的成果を挙げている研究者が、それを特許取得または実用化が展望できる内容に発展させることを目指した、先端技術に関する研究 |
| (4) 産業先行研究 | この研究助成は「岡山県産業振興財団科学技術賞」と称し、岡山県技術振興基金事業「若手研究者支援助成金事業」により設けたもので、申請時40歳以下の研究者自身が行う産業界のニーズに応える新事業創出及び新事業展開に向けた研究              |

#### 4. 研究助成件数と助成額

- |            |     |     |                 |
|------------|-----|-----|-----------------|
| (1) 萌芽研究   | 2～4 | 件程度 | (1件 30～50万円程度)  |
| (2) 一般研究   | 3～5 | 件程度 | (1件 70～100万円程度) |
| (3) 特別研究   | 2   | 件   | (1件 200万円程度)    |
| (4) 産業先行研究 | 5   | 件   | (1件 40万円)       |

#### 5. 研究助成の申請

##### (1) 応募資格

理工学分野の基礎及び応用研究に従事している研究者又は研究グループで岡山県下の大学、高専及び公的研究機関に所属する者

##### (2) 申請手続

申請者は研究の目的、性格、必要性等を十分に考慮のうえ、適切な種目で「研究助成申請書(様式1A)」を作成し、所属研究機関の代表者に提出し、その推薦を受けてください。研究機関の代表者は、申請書類を研究種目ごとに取りまとめ、下記7に提出してください。

##### (3) 申請書類

申請用紙は、当財団のホームページからダウンロードできます。

また、財団事務局まで連絡いただければ、電子データの様式をお送りします。

応募に当たって、以下のことに留意願います。

(1)研究の目的、必要性、計画の概要の焦点を絞り、(2)従来の研究あるいは手段・方法などに対する優位性が具体的(できれば定量的)にわかり、(3)専門の周辺の研究者にも研究の概要が理解できるように記述してください。

なお、専門領域の研究者しか理解できないような専門用語を多用した内容のものや、どこまでを目標とするのかが明瞭でない申請書も見受けられますので、配慮ください

#### 6. 提出期限

**令和4年4月8日(金) 必着**

#### 7. 提出先・お問い合わせ先

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学新技術研究センター内  
公益財団法人 岡山工学振興会事務局(ご持参又はご郵送願います)  
Tel・Fax: (086) 255-8311、 E-mail: ofst@okayama-u.ac.jp  
URL: <http://ofst.or.jp/>

#### 8. 選考結果

- (1) 選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定します。申請者及び推薦者に対し、採否、助成金額、交付の期日と方法を通知します。

決定予定時期 令和4年7月中旬

- (2) 採否決定経緯の問い合わせには応じかねます。  
(3) 申請書類等は、原則として返却いたしません。

#### 9. 研究の実施期間

研究実施期間は、原則として交付決定日から令和5年3月31日までとします。ただし、産業先行研究については令和5年2月28日までとします。

## 10. 助成金の使途

申請課題以外の目的に使用することはできません。

研究代表者が病気等で長期にわたって研究ができなくなる場合、又は研究者が他の研究機関等へ異動される場合は、財団にご連絡ください。

### 11. 研究終了後の手続

研究者は、研究実績報告書を研究終了後、提出してください。その詳細は採択時にお知らせします。

### 12. 研究成果の公表

(1) 研究成果を公表する場合は、下記の財団名を参考にして、当財団から助成を受けた研究である旨を明記してください。

和文例 : 公益財団法人 岡山工学振興会

英文例 : The Okayama Foundation for Science and Technology

(2) 助成を受けた研究者は、4～5年後に当財団から研究成果の発表講演を要請する場合があります。その場合は、特別の事情がない限り、応じていただきます。発表講演では、岡山県内の理工学の発展又は先端技術の向上と研究成果の結びつきについて、具体的に述べてください。

## II. 国際研究集会等派遣の助成

令和4年度の募集はございません。

## III. 学術研究集会，学術講演会への助成

令和4年度の募集はございません。

## IV. 産学官連携研究会への助成

### 1. 目的

岡山県内の大学と産業界の連携を図りつつ、理工学に関する学術ならびに先端技術に関する研究を助成し、その振興を図ることにより、岡山県における科学技術社会の発展に寄与することを目的とします。

### 2. 助成対象の研究会等

理工学分野の基礎及び応用研究に従事している研究者又は研究グループで岡山県下の大学、高専、公的研究機関、行政及び企業に所属する者で構成された研究会

### 3. 事業の範囲

研究会等が行う事業の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 理工学に関する研究成果の普及に関するもの
- (2) 先端技術研究に関する情報の提供に関するもの
- (3) 理工学に関する産学交流事業に関するもの
- (4) 理工学教育の振興に関するもの
- (5) その他財団の目的を達成するために必要なもの

#### 4. 申請手続

研究会等を設置する場合は、「研究会等設置申請書（様式 5A）」及び「研究会等助成申請書（様式 6A）」を財団事務局に提出してください。

申請用紙は、当財団のホームページからダウンロードできます。

また、財団事務局までご請求くだされば、電子データの様式を送ります。

#### 5. 提出期限

令和 4 年 4 月末日

#### 6. 提出先・お問い合わせ先

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1 番 1 号 岡山大学新技術研究センター内  
公益財団法人 岡山工学振興会事務局（ご持参又はご郵送願います。）  
Tel・Fax : (086)255-8311、E-mail : ofst@okayama-u.ac.jp  
URL: <http://ofst.or.jp/>

#### 7. 選考結果

選考委員会で選考し、申請者に採否、助成金額及び交付期日と方法を通知します。

#### 8. 研究会等終了後の手続

研究会等の代表者は、毎会計年度終了後速やかに当該年度の研究会等事業収支報告書を提出してください。

## 令和 4 年度 学術交流推進事業公募要項

#### 1. 目的

この助成は、岡山県内における理工学に関する学術ならびに先端技術の向上を目指した優れた学術研究及び学術集会開催等を助成し、その振興を図ることにより、岡山県における科学技術の発展に寄与することを目的としている。

#### 2. 研究助成等の対象

理工系の基礎及び応用研究又は、これらに関わる学術集会等。

#### 3. 研究助成等の種目

- (1) 学術研究推進助成 特色ある成果を挙げている研究者等がさらに高水準を目指して取り組む、学術的あるいは先端技術に関する研究。
- (2) 学術集会開催推進助成 岡山県内の理工学の発展と先端技術の向上に寄与する学術集会、学術講演会。

#### 4. 研究助成等の費用

学術研究推進助成等申請書の研究内容等に賛同する企業等の寄附金をもって充てる。

#### 5. 研究助成件数及び金額

概ね 20 件程度（総額 1, 000 万円程度）

#### 6. 研究助成の申請

- (1) 応募資格 理工学分野の基礎及び応用研究に従事している研究者又は研究グループで岡山県下の大学、高専等教育研究機関に所属する者。

- (2) 申請手続 申請者は、研究の目的、性格、必要性等を十分に考慮し、学術研究推進助成申請書（様式1-1）を、又は学術集会開催推進助成申請書（様式1-2）を作成し、下記8に郵送又はメールで提出してください。
- (3) 申請書類 申請用紙は、当財団のホームページからダウンロードできます。  
また、財団事務局に連絡いただければ、電子データの様式をお送りします。
- (4) 受付開始 令和4年4月1日から
7. 提出期限  
毎月月末
8. 提出先・お問合せ先  
〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1 公益財団法人 岡山工学振興会事務局  
TEL・FAX：(086)255-8311、E-mail：ofst@okayama-u.ac.jp  
URL：http://ofst.or.jp/
9. 選考結果  
選考委員会で選考（審査）し、申請者及び寄附者に採否、助成金額、交付期日等を通知する。
10. 研究・集会終了後の手続  
助成期間終了後1年以内に学術研究推進助成実績報告書（研究継続中の場合は中間報告書）（様式5）又は学術集会終了報告書（様式6）を提出して下さい。
11. 研究成果等の公表  
財団HPにおいて公表する。

## 賛助会員様のご紹介

(公財)岡山工学振興会は、理工学に関する研究を振興するとともに、先端技術の向上を目指した大学と産業界等との連携をはかり、もって学術および技術開発の進展に寄与することを目的としています。この趣旨に賛同し、ご支援賜っています法人会員様をご紹介します。

## 内山工業株式会社

### 【内山工業のプロフィール】

1989（明治31）年、コルク栓の製造を開始し「内山コロップ製造処」を興したのが当社の創業です。その後数々のコルク製品を開発し、そこで培った「密封と絶縁」の技術を活かし合成ゴムを用いたガスケットやベアリングシールさらには樹脂製品などの自動車部品を軸とした事業展開を実施しており、独立系メーカーとしてトヨタ自動車、日産自動車をはじめとした国内の全自動車メーカー、主要なベアリングメーカーならびに海外の主要自動車メーカー、ベアリングメーカーを取引先としています。

海外への事業展開も積極的に進めてきており、現在グループ全体で国内18、アメリカ、ポルトガル、ベトナム、中国広州、韓国など海外7工場を有し、現在メキシコに新工場を建設中。

またアメリカ、ドイツ、上海、インド、パラグアイ、メキシコに営業拠点を配置、研究所も日本をはじめ、アメリカ、ドイツ、ベトナムに展開しており、設計・開発、生産・販売までグローバルに取り組んでいます。



### 【コルクの自動車内装部品への展開】

今年コルクシートを使用した内装部品がマツダ様のMX-30に採用されました。コルクに関するマツダ様と当社の関係はマツダ様が東洋工業時代に当社がコルク事業を引継ぎさせていただいた経緯があります。今回の開発はそのような経緯からマツダ様から当社に共同開発のお話をいただいたのがはじまりです。

当社にとって自動車の内装についてはほとんど経験なく、エンジン回りの部品とは異なる耐候性、質感、見た目などの要求特性を満足させるのに苦労しましたが、何とか要求仕様を満足するものができ現在採用いただいています。今後の展開が楽しみです。



マツダ様ホームページより

### 【新規事業開発室の新設】

当社の売上は約9割が自動車関連部品となっているのが現状です。そのような中、自動車関連以外の分野を開拓するために3年前に新規事業開発室を新設しました。

様々な分野の調査を実施し、その中から多数の方々との面談を重ねてきた結果、岡山大学との共同開発により白血病など血液のがんの診断に必要な「骨髄検査」の練習キットをコルクと樹脂を使って「骨髄戦士セイケンジャー」として商品化しました。これを機に医療分野向けに他の商品開発も進行中です。



刺入素材（カートリッジ方式） 本体アダプター

### 【コロナ禍の中での新商品の開発】

長期的な新型コロナウイルスの影響により、当社も大きく受注が減り休業実施を余儀なくされました。そのような中、少しでも売上を伸ばすために何が出来るかを検討し、マスク、フェースシールド、簡易ベッドを生産するに至りました。

それぞれの商品は自動車部品の生産で培った生産技術、設計開発のノウハウを活用して新型コロナウイルス対策商品として商品化を実現しました。



### 【変化の時代に】

グローバル化やテクノロジーの急激な進化によって、各所で様々な変化が起こっています。当社にとって関わりの深い自動車業界においては「CASE」をキーワードに変化が急激に加速しています。

このような環境下、当社の経営理念「会社を愛する人間集団として、将来に向かって挑戦するとともに、地球的感觉を養い、世界に誇れる製品を提供し、そしてお互いに助け合い、信頼し、幸福への道を開拓するために積極的な行動をとり、温かい心をもって、いつまでも発展することを目指します。」を基軸に進化を試み、変化に乗り遅れることなく新製品を開発してまいります。

関係各位におかれましては今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

#### 内山工業株式会社

〒703-8588 岡山県岡山市中区小橋町 2-1-10

<http://www.unc-net.co.jp>

### 《（公財）岡山工學振興會賛助會員の募集について》

（公財）岡山工學振興會は、平成元年2月に設立された特定公益増進法人で、平成23年11月公益財団法人に移行した法人です。本財団は、理工学に関する研究を振興するとともに、先端技術の向上を目指した大学と産業界等との連携を図り、もって学術および技術開発の進展に寄与することを目的としています。本会の趣旨にご賛同のうえ、是非とも賛助會員をお引き受け頂き、ご支援賜りたくお願い申し上げます。

**平成27年度から賛助會費については、定款の変更に伴い、寄附金控除の対象となる旨の税務署の確認をいただいております。**

賛助會費（年額）

- |          |    |         |      |
|----------|----|---------|------|
| (1) 法人會員 | 1口 | 50,000円 | 1口以上 |
| (2) 個人會員 | 1口 | 5,000円  | 1口以上 |

電話/Fax : (086)255-8311      e-mail : ofst@okayama-u.ac.jp

※詳しくは当財団ホームページ <http://ofst.or.jp/> をご覧ください。

#### 賛助會員

（法人）株式会社英田エンジニアリング、株式会社OKI ソフトウェア、倉敷化工株式会社、株式会社システムズナカシマ、新興工業株式会社、ナカシマプロペラ株式会社、北興化学工業株式会社、みのる産業株式会社、安田工業株式会社

（個人）伊藤敏幸、宇野義幸、岡本康寛、古賀隆治、酒井貴志、眞田明、芝本詢三、清水一郎、高橋智、辻善夫、本田和男、村上宏、吉田彰、和田力、白石

## 財団コラム

### 「学術研究助成」への応募を期待しています。

代表理事 酒井 貴志

今年も学術研究助成等のご案内をする時期となりました。

本財団におきましては、皆様からの格別のご支援とご協力により運営されていますことを深く感謝申し上げます。特に、近年の景気動向や超低金利の中で、財団の運営も厳しさを増していますが、その中にあっても岡山地域での産業・科学技術振興の使命を果たすべく工夫をしていきたいと願っています。

さて、昨年度は、(1) 萌芽研究・岡山工学振興会科学技術賞 5 件、(2) 一般研究・岡山工学振興会科学技術賞 5 件、(3) 特別研究・内山勇三科学技術賞 2 件、(4) 産業先行研究・岡山県産業振興財団科学技術賞 5 件の助成を致しました(財団ニュース 121号参照)。

最近の傾向は、相対的に若手の応募が少なくなっている状況です。研究者の年齢が上がってきていることを反映しているのかもしれませんが、このことも考慮して、助成の中で年齢制限があるのは(4)の「40歳以下」のみで、(1)、(2)、(3)には年齢制限はありません。

また、助成審査は「選考委員会」(外部審査を含む)に託されていますが、申請書においては科研費等とは異なり、専門分野以外の方にも概要が理解できるように、専門用語を多用した文章だけでなく、図表も入れて視覚的にも理解できる内容にさせていただきたく思います。また、「基礎研究」も十分尊重しています。皆様からの積極的な応募を期待していますので、よろしくお願い申し上げます。

### (公財)岡山工学振興会 「学術交流推進事業」のご案内

本財団の事業の一つに「学術交流推進事業」があります。ここで事業の概要を説明させていただきますので、皆様からの活用をよろしくお願い申し上げます。

この助成は、岡山県内における理工学に関する学術ならびに先端技術の向上を目指した優れた学術研究および学術集会等を助成し、その振興を図ることにより、岡山県における科学技術の発展に寄与することを目的としています。

本事業は、研究者から申請のあった研究内容等に賛同する企業等の寄付金をもって充てられます。

申請から、研究者と企業のマッチング、成果報告の流れを、以下の「学術交流推進事業」概略図において①から⑥で示します。

応募要項、申請書式、手続き、応募状況・報告等の詳細は、財団

ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

